

令和2年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSRI・SSRA クリティカルシンキングトレーニング（CTT）
期 日	SSRIまたはSSRAの授業時間のうち計9回
対 象	1年生全員（普通科6クラス・理数科2クラス）
目 的	・論理的思考力・批判的思考力を養うことをとおして、課題研究を深化させるための基礎的技能と反論の書き方を身につける。
内 容	<p>今年度は、以下の3つのテーマについて、それぞれ3回分の授業を行った。多角的・多面的、複合的な視点で事象をとらえる力を養うため、複数教科の教員が連携し、異なる視点でそれぞれの課題文の解説や補足を行った。（例年は、もう1つのテーマを設定している。今年度は、休校に伴う日程変更により未実施。）</p> <p>6月：論の書き方（国語） 3回 9月：人工知能AI（数学・国語） 3回 12月：生命倫理（公民・生物） 3回 年間計9回</p> <p>* 3回の授業の流れは以下のとおり。 1回目：課題文を読んで主張と根拠を確認 2回目：反論を考える（構想メモ）、型の提示と一次草案の作成 3回目：書き上げた草案について、ICEモデルを用いて相互評価一次草案を推敲し、清書原稿の作成・提出</p>
教 材	<p>教材・資料としては、以下の条件を満たすものを提示する。</p> <p>（1）主張が明快である。 （2）主張を支える根拠が明確に示されている。 （3）ディベートの論題のように短いものではなく、ある程度の長さをもっている。 （4）論じるのに、高度すぎる特殊な専門的な知識を必要としない。 （5）生徒の現在の生活から遊離したものではない。 （6）読み手を刺激するような文体で書かれている。</p>

授業の様子～C T T 1 「論の書き方」より～



ICE モデルで相互評価

推敲・清書

評価

ICEモデルを活用したルーブリックを用いて生徒間での相互評価を行った。

自己評価			
観点	I：考え (Ideas)	C：つながり (Connections)	E：応用 (Extensions)
読解	①筆者の主張が書かれている。	②筆者の主張の根拠が書かれている。	③筆者の主張と根拠が、接続語を使って論理的にまとめられている。
反論	④指定された形式で文章が書かれている。 ⑤1つめの反論と2つめの反論が述べられている。	⑥3つめの反論が述べられている。 ⑦反論の根拠が、課題文に書かれていることを用いて示されている。	⑧反論の根拠が、自分で調べた他の資料や論などを用いて書かれている。
文章表現	⑨正しい原稿用紙の使い方で行われている。 ⑩誤字・脱字やら抜き言葉がない。	⑪語句の使い方が適切で、文意が通じないところがない。 ⑫接続詞が適切に用いられ、文と文が筋の通った順序で並んでいる。	

感想など

【他者評価】

- 筆者の論が明確に示されており、わかりやすかった。
- 調べたことも盛り込まれていて、説得力があったと思う。

【自己評価】

- 2つめと3つめの反論に、論点の重なりがあったので、練り直したい。
- 相互評価で指摘されたことを、活かして清書を行いたい。